

2019年9月26日

各 位

中越パルプ工業株式会社

マップカ新工場起工式開催について

当社（代表取締役社長：加藤明美）と株式会社環境経営総合研究所（代表取締役社長：松下敬通）との合弁会社である中越エコプロダクツ株式会社（代表取締役社長：荒屋英治）の新工場建設にあたり、当社高岡工場（高岡市）敷地内の建設予定地にて本日起工式を執り行いましたので、お知らせいたします。

中越エコプロダクツ株式会社は、株式会社環境経営総合研究所が独自の特許と技術を駆使して開発したプラスチックに代わる新素材「マップカ（MAPKA®）」シートを製造する会社です。

マップカとは、セルロース・ファイバーを主原料として合成樹脂を混合したプラスチックでも紙でもない素材でありながら、従来のプラスチック容器と同等の機能を持つ新しい素材です。

海洋プラスチックごみ、マイクロプラスチックなどのごみによる環境汚染が国際的な問題となっている今日、世界各国で使い捨てプラスチックの使用規制が強化されています。新工場において製造するマップカは、石油由来の資源の使用を大幅に削減することができるばかりではなく、一般ごみとすることが可能な、地球温暖化や酸性化といったライフ・サイクル・アセスメントにおいても環境性能の高い製品です。惣菜や弁当に使われているプラスチック容器の多くは使い捨てですが、これらは現在もライフスタイルの変化と共に拡大を続けています。代替となるものがない中で、マップカの使用によりプラスチック使用量の削減を始めとする高い環境対策の実現を図れることは、事業者にとっても利用者にとっても大きな利点と言えます。

さらに、今回新たに酸素バリア性を有するマップカシートを新工場において製造します。酸素バリア性トレイは米飯や惣菜などの常温保存を目的とした食品向けや、非常食へ展開します。ライフスタイルの変化への対応や災害時対策、フードロスの解決等に貢献しうる製品です。富山県産食材のトレイに採用されれば、地元富山ブランドとして、安全・安心に裏打ちされたメイドイン・ジャパン製品として、国内はもとより世界へのアピールが可能になります。

当社は、さらなる事業展開を図り、技術革新によるイノベーションの基盤拡大、生産から消費に至る作る側の責任、地球温暖化対策、海の豊かさや水資源を守り、森林資源の持続可能な活用の推進、官民相互のパートナーシップの推進など経済、社会、環境の側面から持続可能な開発へ向けた取り組み（SDGs）を推進してまいります。



・起工式の模様

本日 10 時 00 分から新工場建設予定地にて高橋高岡市長、小城富山県商工労働部企業誘致専門監、工事関係者など約 40 名が参加し、工事の安全を祈願しました。



加藤社長が鎌入れ



松下社長（左）、荒屋社長（右）が鍬入れ



荒屋社長が施主挨拶



起工式会場

・新工場の外観イメージ



- ①所在地 : 富山県高岡市材木町 (当社高岡工場敷地内)
- ②設備投資額 : 約 35 億円
- ③生産能力 : 12,000 T / 年 (食品トレー用シート)
- ④工事期間 : 2019 年 10 月着工、2020 年秋竣工予定
- ⑤規模等 : 鉄骨造り 地上 2 階
延床面積 6,612 m² 建築面積 5,530 m² 敷地面積 8,450 m²

「MAPKA」は株式会社環境経営総合研究所の登録商標です。
以上



中越パルプ工業株式会社



株式会社環境経営総合研究所

本件に関する問い合わせ先

中越パルプ工業(株) 経営管理本部副本部長兼管理部長 石原 秀樹
(TEL. 0766-26-2404)